

文化財案内

案内文の番号は、裏面地図の番号と同じです。

①～③は、裏面にあります。

④ 齋山古墳 名古屋市区大高町齋山

菩薩遺跡の南に延びる丘陵上に齋山稲荷社がありますが、ここに古墳があります。その詳しいことはわかりませんが、周囲から出土する古墳にそえられた円筒の埴輪は4世紀後半から5世紀初頭に作られた特徴を持っています。

⑤ 名和古墳群 市指定史跡 名和町三ツ屋

緑陽小学校の南の道を東に入った所の丘陵の上に、今から約1450年前の古墳時代後期（6世紀前半）に造られた円墳で、1～3号墳の3基が確認されています。1号墳は、直径約20mで、内部に平石を7・8段積み上げた横穴式石室が確認され、埴輪・土器台などの須恵器や鉄鍬が出土しました。これらの古墳は、この地域の有力な豪族の家族の墳墓として築かれました。古墳に埋葬された品々は、東海市立郷土資料館に展示されています。

⑥ カプト山古墳跡 市指定史跡 名和町欠下

緑陽小学校の南に広がる丘陵上に、今から約1500年前の古墳時代前期（4世紀末）に造られた東西約43m、南北約49m、高さ約4.5mの円墳がありました。古墳の頂付近には粘土に覆われた棺を納める施設があり、その内側には朱が塗られ、床には小石が敷き詰められていました。銅鏡・管玉・石釧・鉄刀などが出土しました。

この古墳は、尾張南部地域で最も早く築かれており、あゆち瀧と伊勢湾を治めた首長の墳墓と考えられます。

⑦ カプト山遺跡 名和町石田・欠下

緑陽小学校の南に広がる丘陵上に、弥生時代から古墳時代にかけて営まれた集落遺跡で、この遺跡の東に接するカプト山古墳側からの土採りの際に発見されました。昭和47年（1972）と翌年に発掘調査が行われ、9棟の竪穴住居跡がみつかりました。ここを、史跡公園として整備するためこれらの遺構はそのまま埋め戻されています。

⑧ 八幡社貝塚 市指定史跡 名和町姥ヶ懐

県道名古屋半田線（通称・半田街道）の龍の脇交差点から北東に入った丘陵のすそに八幡社があります。この社の境内にあるハイガイが多く捨てられた貝塚より、縄文時代晩期と弥生時代中期以降室町時代までの土器・石鍬・瓦などが出土しています。

貝塚は、昔の人が食糧として採ってきた貝を食べたあと貝殻を捨てた所で、日常生活で不用となった用具類も捨てられました。いわゆるゴミ捨て場なのですが、この貝殻を食べていた人々の時代の生活を復元する上に貴重な資料となっており、文化財として保護されています。

⑨ トドメキ遺跡 名和町トドメキ

県道名古屋半田線の龍の脇交差点からトドメキ交差点周辺に広がる遺跡で、県道の新設工事に伴い発掘調査が行われました。その結果、現地表面より約2.5mほど下の所から、縄文時代後期から古墳時代前期にかけての土器や木器が出土しました。中でも珍しいのは、紀元前6世紀ころに蓄えられたドングリの貯蔵穴が見つかったことです。

ほかの地点からは、白鳳期（7世紀後半）の瓦が大量にみつかり、この地に堂塔をそなえた立派な寺院があったと考えられます。



長光寺境内の碑

⑩ 長光寺 名和町榎戸

国道247号線（常滑街道）を少し入ったところにあるお寺で、境内地一帯に古くから製塩土器が散っており、本堂再建に伴い昭和60年（1985）に発掘調査が行われました。その結果、この辺りは古代に専用の土器を使って海水を煮詰めて塩の結晶を採った土器製塩遺跡であったことがわかりました。土器製塩は海水を使うため海岸に近い所で行われたことから、古代にはこの辺りが海岸に近いところであったことがわかります。

境内には、名和出身で江戸時代末期に江戸相撲で活躍した力士浦右子門の碑や、江戸時代にこの地で活躍した俳人の成田子襲の塚（「花もちてさびしがられる芒かな」の句が刻まれています）があります。

⑪ 堂ノ前貝塚跡 市指定史跡 名和町堂ノ前

船津神社のある丘陵の西側のふもとを通る道路ぎわにある約50mの小規模な貝塚で、ハイガイ・サルボウ・カキ・シオフキなどの貝類と縄文時代晩期から江戸時代までの土器・陶磁器・石器などが出土しています。現在は住宅の下に埋もれてしまっていますが、古い時代にはこの辺りが海岸に近かったことを示しています。

⑫ 船津神社 名和町船津

船津の地名は、日本武尊が東国征伐のときに伊勢から海を渡ってここに船をつけたことに由来するという説も伝えられています。

船津神社は名和小学校のある丘陵の西にあり、天慶2年（939）に社殿が造営されたと伝えられており、古い由緒を持つお社です。このお社には、航海の安全を願って、古くから甕が奉納されており、氏神様として祭る名和村では、甕を不浄なことに使わない風習が伝わっています。

⑬ 早川三郎記念碑 名和町東垣内

名和村の早川三郎は、村会、郡会、県会の議員を務めるとともに、熱田と名和、名和と大高などを結ぶ道路の新設や改修に力を尽くして、今日の交通網の基礎をつくりました。早川翁の古希（70歳）をお祝いして、大正15年（1926）に地元の有志が記念碑を建てました。碑の文章は加木屋の久野保心が書き、「南涯早川三郎頌徳碑」の題額を、横須賀出身の歌人で有名な阪（本名は坂）正臣が書きました。知多バス「記念碑前」バス停はこの記念碑にちなむ名前です。

⑭ 大仏寺（聚楽園大仏及び境内地） 市指定名勝 荒尾町西丸山

この大仏は昭和2年（1927）に、名古屋の実業家山田才吉が昭和天皇の御成婚を記念して建立しました。像高18.8mの鉄筋コンクリート製で、昭和59年（1984）に大がかりな補強修理が行われ、翌年に大仏寺の御本尊として修復落慶開眼供養が行われました。高台に鎮座する大仏は東海市のシンボリックな存在として人目を引いています。